

投資事業評価調書（新規）

部課室名	港 湾 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (建設係長 坪田 勝幸)	内線	4440 (4450)
------	-------	---------------------	---------------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	7.4億円
		東播磨港改修(防災安全対策)	二見地区	内用地補償費	億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
加古郡播磨町東新島			H17	H17	H19
事業目的			事業内容		
兵庫県地域防災計画に基づき、二見地区の既存岸壁の耐震改良を行い、災害に強い港湾づくりを目指す。広域防災拠点として隣接地の明石海浜公園が位置づけされており、一体的に機能する。			既存施設の耐震強化 岸壁(-7.5m) 1バース L=130m [負担割合 国5/10 県5/10]		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県地域防災計画において、東播磨地域の広域防災拠点として明石臨海公園が位置づけられており、その海上アクセスポイントとして東播磨港二見地区を位置づけている。 耐震強化岸壁は、災害時における災害応急活動に必要な物資、資機材、要員等の緊急輸送体制の整備のために必要である。 当該岸壁は、水深-7.5mの岸壁であり、海上自衛隊の補給艦や海上保安庁の巡視船等を使用して緊急物資の海上輸送が可能になるため、今回、整備を図るものである。 また、避難者及び応援者等の収容施設として客船やフェリー等が使用できる。 				
(2)有効性・効率性 有効性 効率性	<ul style="list-style-type: none"> 東播磨地域内において震災時に損壊を免れることができる耐震強化岸壁を図ることにより、緊急物資の取扱いが可能となり、県民生活の安定に寄与する。 当該岸壁が被災した場合の復旧期間中、当該岸壁で取り扱っている通常貨物の輸送コストの増大を回避できる。 費用便益比 B / C = 2 . 1 「つくる」から「つかう」への観点から、新たな施設を整備するのではなく、既存施設を改良するもので、施設を有効に利用できるほか、コスト縮減できる。 当該岸壁と隣接して地域防災拠点が整備されており、橋梁の耐震強化も事業実施中であるため、それらの施設とともに有効に機能する。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 既存の岸壁はそのまま使用し、背後地盤を硬化させ土圧を低減させることにより耐震強化を図る。そのため、岸壁撤去時に発生するコンクリート殻等の建設副産物や岸壁前面海域への水質汚濁等の発生も少なく、環境に与える負荷が小さい。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 東播磨地域には耐震強化岸壁が整備されておらず、県民生活の安全・安心の確保、地域安全対策の推進のため、早急に整備する必要がある。 				